



車内の金城学院大学

137限目

「日本語教育」

「グローバルな社会を支える「やさしい日本語」？」

[やさしい日本語]

日本の夏の暑さは年々厳しさを増し、日本で暮らす外国人に対しても熱中症への注意喚起が欠かせません。そこで役立てられているのが「やさしい日本語」です。これは、簡単な単語や文法を用い、ふりがなをふった日本語のことで、例えば熱中症の代表的な症状である「倦怠感」を伝える時は「とても疲(つか)れた感(かん)じがする。気分(きぶん)が悪(わる)くなる。」などのように表現されています。これが考案されたのは、阪神・淡路大震災が起きた1995年。当時多くの外国人も被災しましたが、避難場所や各種支援の情報がほとんど伝わらなかったため、日本語が少しわかる程度でも十分理解でき、どんな言語にも訳しやすいシンプルな日本語の必要性が認識されました。このように、外国人とのコミュニケーションは、外国語を駆使すればよいというだけでなく、様々な工夫をこらして相手に伝わりやすくすることが大切なのです。

言語の特徴を知り、高いコミュニケーション能力を身につける。それが文学部 外国語コミュニケーション学科。

強く、優しく。



金城学院大学